

ほほえみ 第138号



久しぶりに全国的に緊急事態宣言のないゴールデン・ウィークでしたが、皆様、いかがお過ごしだったでしょうか。宣言解除とはいえ、なかなか、遠くに出かけるというのも難しかったかと思われそうですが、徐々に、新型コロナ肺炎の制約がなくなっていくことを願ってます。5月とはいえ、まだ寒暖の差が大きいように思いますが、外を歩くことができるのは良いですね。

新渡戸稲造と二宮尊徳

連休中はこのテーマで読書したり、文章を纏めたりしておりました。この二人には、いろいろと共通点がありますね。まずは、お札の顔に選ばれた偉人であるということです。日本のお札に選ばれた人物は、これまで18人ですが、その中の2人であるということです。二宮尊徳は、戦後の一円券の、新渡戸稲造は1984年から約20年間五千円券の顔でした。

二番目には、農学を生き方の基本に据えていたということです。二宮尊徳は相模国の農家に生まれましたし、新渡戸稲造は日本最初の農学博士でした。二宮尊徳の逸話として、初夏の茄子の味をみて、夏本番前に太陽の力が衰えていることを察知し、冷害を予想したことが挙げられます。周囲は、本気にしませんでした。尊徳のすごいところは、農民に直ちに稗を植えることを推奨し、そのために稗を植えた者に年貢の減免を行うという施策を打っていることです。尊徳の考え方に沿えば、このような施策は仏教でいうところの方便ということでしょう。実際に、冷害となれば、年貢を減免すると言わなくても稗を植えるでしょうが、普通はそれまで稗を植えたりしないものです。結果、間に合わず飢饉になります。しかし、年貢の減免という方便を使えば、誰もが半信半疑ながら稗を植えるだろうと人心を読んでいたのです。新渡戸稲造は、台湾の人々に収入の道を確保するため、サトウキビ栽培を推奨し、実際に製糖業を根付かせたことが挙げられます。領地を石高で図る発想では生まれえない選択肢ですが、海外経験が長く、世界各国の農業事情に明るい稲造ならではの施策です。

三番目には、家庭的に恵まれない環境で育ったということです。共に10代で両親を亡くし、おじの下に預けられた経緯がある偉人です。また、最初の子供を、生まれてまもなく失うという経験をした人物でもあります。両者とも、大変な勉強家であることは有名ですが、決して恵まれた環境で勉強した訳ではなく、苦学という言葉が適切でしょう。意外かもしれませんが、卓越した人物の特徴を統計的に分析すると、早くして父親を失ったという特徴があることが知られています。

M. チクセントミハイによれば、卓越した成果を上げた人物の内、実に、男性では10人中3人が、女性でも10人中2人が、10歳になるまでに父親を亡くしているという結果になっています

稲造、尊徳に関していえば、父親は立派な人物ではあったのですが、夭逝したということです。そういった意味では、彼らは苦学はしましたが、積善の家に余慶ありとも言えるかもしれません。



ナブパクリタキセルの供給見直しについて

昨年来、ナブパクリタキセルに関しては、米国の工場の稼働の問題で供給が不安定となっております。そのため、代替薬が使用できる場合にはナブパクリタキセルを選択しないなどの措置が全国的に行われ、何とか需給のバランスが調整されておりました。この度、メーカー側から薬剤の供給不安がなくなった旨、連絡がきましたので、お知らせ致します。

日本国内では根本的に解決することが難しい問題ではありましたが、これまで、ご心配をお掛け致しましたこととお詫び申し上げます。



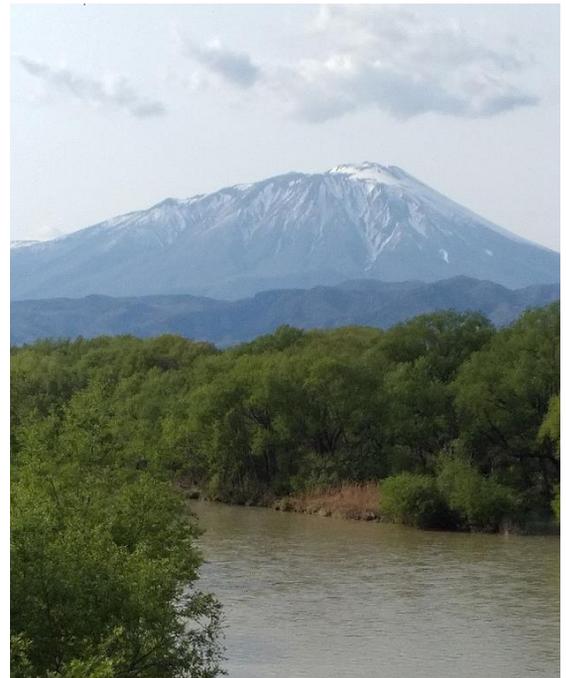
連休中の過ごし方

皆様、今回の連休はどのように過ごされたでしょうか。緊急事態宣言が発出されていないとはいえ、なかなか遠出することもままならなかったかと思われます。

個人的には、旅行するというのも難しく感じておりましたので、市内での散歩まででした。天気が良く、素晴らしい岩手山の風景を楽しむことができました。橋の上から撮ったのですが、写真だけ見ると、100年前もこうだったのではないかと思います。うような風景ですね。

新渡戸稲造は、岩手山を見る一正位として、以下のように述べています。

北上川おもむろにそのかたわら流れ、河中一小砂州あり、州上孤松生ず。もしそれこの東北富士の至景を収めんと欲するか、君はすべからくこの楚々たる松樹の下に佇むべきなり。
『随想録』 視物の正位



MEMO 5月のがん化学療法科の予定

5月2-8日 ゴールデンウィーク

診療応援の先生方

| | |
|-------------|---------|
| 月曜日 | 齋藤里佳先生 |
| 第1, 3, 5火曜日 | 佐々木啓寿先生 |
| 第2, 4火曜日 | 工藤千枝子先生 |
| 第1, 3, 5木曜日 | 笠原佑記先生 |
| 第2, 4木曜日 | 今井源先生 |

